

令和7年度 第1回 氷上回廊水分れフィールドミュージアム運営委員会 会議記録

日 時：令和7年8月5日（火）16:00～17:30

場 所：丹波市立氷上回廊水分れフィールドミュージアム2階 多目的室

出席者：三橋委員長、松井副委員長、高木委員、松原委員、大木委員、梅垣委員、田村委員、山田委員、永井委員、吉住社会教育・文化財課長、足立副課長、中本主事、海老原教育普及専門員、大嶋館長

1 開 会

2 あいさつ 委員長、社会教育・文化財課長

3 報告事項

(1) 令和6・7年度の事業報告 【資料1】

（委員長）来館者はトータルでは増えていますが、ところどころ減少しているということで良いですか。

（専門員）トータルでは微妙に減っていますが、全体の来館者としては出入りする人は減少しています。有料入館者数は4月と6月で増加しています。

（委員長）令和6年は微増していますね。

（委員長）令和7年がトータルでは、微減ですね。有料入館は増加しています。

（委員）昨年度も質問しましたが、この人数は館に入った人のみでしょうか。

（専門員）館を訪れていただいた方のみです。

（委員）公園にだけ来る人はどの程度いますか。

（専門員）前回ご指摘をいただき、毎日ではありませんが、公園内の人数と館内の人数を数えました。やはり人数は時期によって異なります。夏は公園内に60人程でも館内に10名以下というような状況があります。一日通してだと公園内の人数には及びませんが、公園で遊んだ方がふらっと立ち寄っていただいている状況にあります。

（委員）動線として必ず水分れフィールドミュージアムに寄らないと公園に行けないとか、或いは逆に公園に来た人が暑いのでふらっと気軽にに入って座って涼めるような雰囲気づくりなどそのような仕組みにできたら良いと思いました。

（委員長）公園を訪れる方のうち、何割程度水分れフィールドミュージアムへ来られるのか、把握する手段を考えてください。誘導に関しては、今後の課題として昨年度も言っていたので、しっかりとやっていくことが必要です。アンケートでもふらっと近くに来たという意見が多いため、そこを確実に取りこぼさないということが重要です。

(2) 来館者アンケート集計について、

（委員長）ホームページやSNSの効果もそれなりに出ています。他府県から来る人は、リピーターよりも初めての人が多いので、先ほどの指摘と一緒に、確実にその方たちにスムーズに入ってもらえるようにし、公園とセットでの売り出し方も考えていきましょう。SNSで掲載、「公園で水遊びして、あとで勉強をしよう」みたいなことをしっかり宣伝していくようなことが大切ということと、自由記述に関しては特にネガティブな記載がなくても「もっと知られてほしい」と書かれているので、広報に力をいれていく必要があると思いました。

2. 企画展及びワークショップ

(1) 令和7年度に実施する展示およびワークショップ

（委員）企画展で遠方から来られた方もいるという報告でしたが、その方々は何を見て来られましたか。

（専門員）チラシを見て来られました。県外にもチラシを送付していますのでそれを見て来られたのだと思います。翅についての質問を寄せてくださったりなど、遠くから来てくださった方がいました。

(副委員長) 企画展として「はね展」、「モズのはやにえ」と記載がありますが、その対象をどの基準において企画展を開催するかによって、来館者が変わってくるのではないかと思います。やはり親子連れで来てもらえるような企画展なども必要なのではないかと思います。マニアックな人だけが来るのではない企画展を今後考えていただきたいと思います。

(専門員) 秋季企画展として昨年度まで写真展を連続で開催していました。今年度は秋季特別展として伊丹昆虫館が過去に開催されていた展示の「モズのはやにえ」がポップで親しみやすいようなレイアウトであったり内容ですので、昨年度と比較してバランスが変わらないような形にはなります。どうしても市内の写真提供者が来館のメインになってきますので、それはそれで非常に人気があり、またやって欲しいと言っていただけのイベントではありますが、来館者数に繋がりにくい状況もありますので、写真展を隔年にし、夏季特別展が難しい内容だったため、秋季特別展では身近な内容の展示を意識し、このような展示予定にしています。

(委員長) 「モズのはやにえリターンズ」というタイトルがわかりやすいかどうか気になります。まず、「モズ」という鳥についてわかるかどうか、次に、「はやにえ」が一体どういったものなのか、そして、リターンズはそもそもどういった経緯で「リターンズ」なのかタイトルからは読み取れないため、タイトルは変えてもいいのではないかと思います。

(専門員) 先方と相談しましたが、そのままにして欲しいというご意見があり、タイトルとしてそのまま残すことにしました。

(委員長) それは開催者が決めることでもあるので、運営協議会でわかりやすいタイトルの方がいいのではないかという意見があったということは相談してもいいと思います。やはり、水分れフィールドミュージアムで初めて開催する展示に「リターンズ」はわかりにくいと思います。例えば、「モズのごちそう」や「鳥のご馳走展」など、やわらかいタイトルにし、リターンズ部分は工夫が必要ではないかと思いました。シンプルにリターンズを削除し、「モズのはやにえ展」でもいいと思います。

(専門員) 印刷したものをお借りするため、展示物に既にタイトルが入ってしまっているのではないかと考えています。

(委員) そもそもどういう意味なんでしょうか。何がリターンズなのか、返ってくるのがリターンズなのか、2回目の展示会という意味なのか教えてください。

(専門員) 元々、伊丹市昆虫館で数回開催しているイベントで、伊丹市昆虫館で開催されたときには既に「モズのはやにえリターンズ」というタイトルで展示会が開催されていました。

(委員) リターンズは、はやにえを置いておいたのを鳥がもう一回戻ってくるのがリターンズという意味ですか。

(専門員) いえ、展示会をもう1度開催するということです。

(委員) 展示会などに詳しい人であればわかるかもしれませんが少し難しいかもしれません。

(委員長) おそらく博物館に詳しい人でもリターンズの意味はわからないとおもいますのでそれは交渉したほうがいいのではないかと思います。「モズのはやにえリターンズ」ではなく、「モズのはやにえ展」であれば、一般の人や小学生に伝わる可能性があります。おそらくチャットGPTで「モズのはやにえリターンズ」と入力しても、伊丹昆虫館で開催されていたという情報しか出てこないと思います。丹波市教育委員会が主催ですので、変えてもいいかなとは思いますが、委員から指摘があったように、親子にもしっかりと伝わるようにしていただきたいです。

(委員) 冬季企画展の「川を使う」という箇所、川に焦点を当ててアプローチしていこうという、生活文化等を見ていこうというねらいも感じられ、非常に興味深く思うんですが、ある程度頭で固まっているようなものはありますか。

(専門員) まずは舟運のことを取り上げたいと思っています。常設展とあまり重ならないように、由良川も含めるような、由良川舟運も含めるような形で、舟運のことを紹介するパネル作成を考えていることが1点と、水分れ資料館時代の展示物がいくつかあり、その中に水車があるので、農業、川の水をひいてくるなど、農業の話題を入れること、山南に水力発電記念館(上久下村営上滝発電所記念館)があり、

生活にダイレクトに川が影響していたような話題が丹波市内にありますので紹介していきたいと思っています。

(委員) こういう展示をされるときにはどうしてもある程度目玉になるような展示物だとか、そういうものが必要になるかと思います。滝野町に、加古川流域滝野歴史民俗資料館があり、土日も開けておらず、何かのイベントの時だけ開けている資料館になってしまったんですけど、ここはかなり川に関わるものも収集しています。この資料館は水分れ資料館が開設するよりも前から取り組まれていて、散逸する前に集めておられます。例えば、川を使うという中で、もちろん舟運というのもありますが、舟運以外にも、当時は貴重な魚、たんぱく源の供給地でもあり、ウナギを取るための、もんどりも小学校のまだ低学年の頃には加古川に並んでいました。川舟もあり、投網を売っているのを見ました。そのように漁、魚としても、非常に面白いものがあります、ただ、丹波の資料館には春日歴史民俗資料館や市島民俗資料館などの展示物を思い返しても、農具はたくさんありますが、あまり漁具関係は置いていません。ただ、滝野の資料館には漁具関係も残ってるので、展示物を拝借できたらより興味深い展示に近づくと考えます。

(専門員) 委員が言われた資料館へも問い合わせたいと考えています。道具等が借りられそうであれば相談しようと思っています。加えて、由良川の方の舟運も、南丹市立文化博物館の歴史資料館で紹介がありますので、由良川舟運ですが、話など聞きに行くことを考えています。

(委員長) 氷上町内にもそういった漁具を持っている方がいるように思うので、山田委員などともご相談いただきたいと思います。内容についてもどの辺にフォーカスを当てるのか相談して進めていただけたらと思います。

(委員長) 令和7年度のワークショップを見ると人文系のイベントが少ない印象を受けます。大木委員に説明していただくことなどもいいのではないかと思います。例えば漁具に関して詳しい方に話をさせていただいたり、もんどりを竹で編む職人さんなどと連携して制作したもんどりを高谷川に沈めるなど、人文系を入れて、整理すると良いのではないかと思います。

(委員長) 学校対応について、今年度は来館学校が3校となっています。これは例年と比較して増減はありますか。

(専門員) 昨年度と比較すると減少しています。特に出前授業について、昨年度は例年のイベント形式ではなく、単発の形式でしたが、理科の先生が集まる丹波大会準備事業の授業プログラム発表の関係で数回中学校を訪ねた分、昨年度より減少しています。

(委員) 中学生の地域学習インタビューや質問について、どのようなインタビューや質問が多いですか。

(専門員) 偏りはなくバラバラです。自分たちでテーマや質問先を決定し、地域の施設に出かけるというような形の実習をしている授業で、施設運営の方法、黒井川についてなど、内容はその中学校生徒が興味を持った話題になりますので、地球温暖化のことや水質についての質問など様々です。

(委員長) リニューアルオープン時から丹波市内の様々な学校に来てもらうというところが、非常に大きな目標になっていました。秋にかけて、学校に来ていただく工夫がもう少し必要だと思います。学校向けに水分れフィールドミュージアムで学べることをまとめた1枚もののチラシのようなものを作成して、教育委員会の中で周知できたら良いと思います。、人と自然の博物館の場合でもいくら作ってもなかなか来てもらえないことがあります。何回も告知することで学校や団体が来館してくださることもあるのでそこが課題だと思いました。

(委員長) みわかれいきもの調査隊についてはいかがでしょうか。

(委員) メンバーは、4月段階で募集して2回目以降は参加可能な人が参加するというような感じですか。

(専門員) メンバーは都度募集しています。年度当初にSNSとホームページで事業について案内したところ、少しずつ増えているという状況です。内容は自然史系に寄っています。常に応募できるような形で、申し込みフォームをオープンしています、チラシを配るタイミングは、例えば科学の祭典のような、同じ方向に興味がありそうなこどもが集まるイベントでチラシを配るような形で少しずつ興味を持つ

た子が来ていただけたり、夏季特別展のイベントに参加してくれた子が興味を持って、参加していただくような口コミのような形で増やしていければと思っています。

(委員長) 青垣いきものふれあいの里のイベントともすみ分けたり、協働するとかいうようなことをしないと、類似の施設が同じようなことを同じ時期にやっていると市としてもったいないので、整理はしたほうが良いと思います。

(委員) 青垣いきものふれあいの里と一緒にするようなことが必要かもしれません。

(委員長) 来年度の募集の仕方とプログラムの作り方が課題ですので整理をお願いします。

4 協議事項

(1) 令和7年度の取り組み(予定) 【資料2】

(2) 運営に関する意見交換

(委員) 小学校、中学校と連携のとれた事業の実施について、施設の性質を知っていただいてから、講座に参加した方が理解しやすいということがあると思いますが、学習指導要領に合わせた出前講座メニューのリストは作られていますか。

(専門員) 作成していません。田村委員からも昨年度の運営委員会で、借りられるようなプログラムが用意されてると、学校もどういったことができるのかがわかるため、良いとご意見いただいているのですが、着手できていません。

(委員) 自然関係だけじゃなくても歴史や国語でも作ろうと思えば作れるので、リストで作ってもいいと思います。丹波市内には他にも施設がたくさんあるので、他施設も含めてできることの一覧のリストがあると学校的には使いやすいと思います。

(専門員) 水分れフィールドミュージアム紹介の資料は作成しています。機会があれば学校の先生が集まるような場で、紹介させていただきたいと思っていますが、なかなかその機会がない状況が続いています。

(委員) 説明する機会について、丹有地区の高校の生物教員の研修会を水分れフィールドミュージアムで開かせていただきたいと思っています。施設見学も含めてどういう使い方が可能な施設なのかを参加した教員に教えていただけると、施設が使いやすくなるのではないかと思います。既に相談していることではありますが、その際は詳しい内容や使い方を教えていただけると非常に助かります。

(委員) こども園について、自然遊びや季節に応じたことをやっていますので、それにあったような興味のあることは情報提供していただいたり、ハードルが高いような展示でもわかる部分もあることなど、丁寧な連絡をしていただけたら参加者が増えるかもしれません。

(委員) 令和7年度の取り組みとは違いますが、常設展の扉を開放しておいてもらいたいと思います。常設展の観覧にはお金がいるということで、トラブルがあったことも聞いています。しかし、来られた人に展示内容を知ってもらうことでリピーター獲得につながっていくのではないかと思います。もしも料金の問題があるなら予算の許容範囲の中で料金設定をしていただき、大人は100円、子どもは無料など、そのような形での経営の面を考えてもらって採算を合わせていくような形にさせていただくように検討してもらいたいと思います。

(委員長) 料金については条例を変える必要がありますので、すぐに変更は不可だと思います。

(課長) 委員長の仰るとおり、過去の経過があって現在の観覧料が決定していますので、変更するハードルは高いと思います。また、他の施設とのバランスもありますのですぐに変えることはできません。

(委員) 水分れフィールドミュージアムが展示しているものは地域の特性を記したもののなので、皆さんに見てもらえたら良いと思っています。

(委員長) 冬季企画展に関しては以前からあったものをうまく活用するような内容なので、合わせて資料整理をしていく必要があります。貸館としては、教育委員会の教員の研修などに使用してもらい、そのきっかけから先生方が利活用してくださるような好循環が生み出されれば良いと思います。

(委員長) 青垣いきものふれあいの里との日程、内容が被るのをうまく切り分けて、水分れフィールドミ

ミュージアムの特色がでるようにしないといけないと思います。

(専門員) 4月には青垣いきものふれあいの里と日程について調整しています。

(委員長) 丹波市には科学館がありません。物理、数学、化学というような産業関係や工業関係のこと、工作関係は外部の人を講師として呼び、丹波市の地場産業や丹波布の色が染まる化学反応を柏原理科部の顧問である田村先生に説明していただくなど、幅を持たせることが凄く大きいと思います。他にも鉄道の歴史みたいな産業と歴史が被るようなことをどれだけ盛り込んでいけるのかが課題だと思いました。

5 その他

(1) 令和7年度第2回運営委員会

(副課長) 例年であれば年度末に開催させていただくことで予定しています。中間あたりでもし何か緊急で開かなくてはならない時は、改めて日程調整をさせていただくことがあるかもしれませんが、年度末あたりに2回目を開催したいと考えています。

6 閉 会 副委員長